

IPBES総会第8回会合に関する 専門家所見

京都大学名誉教授
(前MEPメンバー)
白山 義久

オンライン会合の長所と短所

1) 予算

- 対面の場合、出席者の大半が旅費を事務局が出すため、開催費用が膨らむ。今回は、その部分が大幅に削減できたので、開催費用が少なくて済んだ。
- 先進国も自国の参加者の旅費を出さずにすんだことは、メリットだといえる。

オンライン会合の長所と短所

2) 総会運営

- オンラインでは、時差の問題が大きい。特に今回は、事務局のあるヨーロッパにとって都合が良い時間で開催していたため、アジアにとっては深夜、南北アメリカにとっては早朝となり、参加に関する負担が大きかった。
- IPCCでは開催時間をローテーションしているらしい。もし、IPBES 9 がオンライン開催になった場合、同様の対応を取ることを強く要求すべきである。

オンライン会合の長所と短所

3) 地域対応

- APの地域会合が会期中に3回しか開かれなかった。
 - 地域間のネットワーキングがほとんど進まなかった。
 - 地域間の情報共有や意見調整などが図られず、APからの総会への強いメッセージを出すに至らなかった。
- 各地域とも、十分な地域内での意見調整が進んでいないように見受けられた。
 - 従来、地域として積極的に発言をしていた、アフリカおよび南米から、地域としての発言がほとんどなかった。
 - アフリカからはほとんど発言がなく、南米の各国は足並みに乱れが見られた。

オンライン会合の長所と短所

4) その他

- ネットワーキング

- 対面の会議の大きなメリットである、各国の参加者とのネットワーキングの機会が皆無であったのは、オンライン会合の大きなデメリットである。
- 舞台裏での調整とかもないので、今回のScopingのような、多少細部については妥協できる内容はともかく、SPMの採択のような、細かい一語一句の議論をしようとする、オンライン会合は難しいのではないか。
- 各国代表の間で、信頼関係が醸成されないと、今後の議論がスムーズに進まないのではないかと危惧される。

- 政府代表内の臨機応変の対応

- 今回は、チャットルームを開設して、政府代表団の内部で議論の進行に合わせて、意見交換を実施した。
- 効率的、かつしっかりとした意見交換ができて、大変良かった。

その他の注目点

- IPCCとIPBESの協力関係
 - 共同ワークショップの開催と報告書の発表
 - 今後の協力強化の期待
- 米国の積極的な関与
 - IPBES10の誘致
 - 拠出金の増額
 - Bureauの活発な活動
- 議長の活動